

『琵琶湖に何が見えますか・・・』

1 学校の概要

本校の校区は、長浜市の北東部に位置している。昔は、校区の東方に「福良の森」という広大な森林が広がっていたが逐次開墾され今は見る影もなく、公共の建物や大型工場が集中している。

住民は、伝統や風習を重んじるところがある反面、核家族の増加や家庭生活の基盤の変化等により、連帯感が薄れる傾向にあるが、教育に関しては、大変関心が深く、何事にも支援的・協力的である。

平成18年2月13日に合併にともない、長浜市立湯田小学校に改称され、平成20年4月より、新校舎での学習が始まった。

また、平成22年度よりコミュニティ・スクールの取り組みをすすめ、「地域とともにある学校づくり」の推進に取り組んでいる。

(1) 実践事例

「琵琶湖に何が見えますか・・・」

5年生で総合的な学習の時間を進めて行くにあたり、身近な琵琶湖について取り組むことを確認。

11月の湯田小フェスタでの発表を目指し、グループごとに様々なテーマを設定して取り組む。課題の設定（琵琶湖の環境・魚・水鳥・水質・ビオトープへの関わりなど）

- ① 目的意識を持ってフローティングスクールへ参加 5/17
- ② エコスクールの基本を学校運営協議会企画委員会にて報告と承認 5/31
- ③ ゴーヤのグリーンカーテンづくりと観察
- ④ 水環境と生物の関連を学習するため「ホテル観察会」の実施。6/8
→地域の人も参加して保全への取り組みを学ぶ
→安心・安全な水づくりの授業（山仲さん・長浜市水道企業団）6/28
- ⑤ 各グループごとの学習展開の支援
- ⑥ 夏休み中の学習も含めて指導。
- ⑦ 学習の進捗確認と自然観察会（ペルセウス座流星群観測会実施）8/14

⑧ 琵琶湖のヨシを使ったヨシパン作り・地域食材を使った料理などをボランティアを中心に実施。

⑨ 各グループの学習進捗の確認
→さらに深めるためにゲストティーチャーの授業の企画

食べて守る	安土城博物館	大沼さん	9/9
ヨシ工作	西の湖ヨシ保存会		9/12
琵琶湖の魚について	松岡正富さん		9/25
魚を食べよう	長浜地方卸売市場の方々		9/26



⑩湯田小フェスタでの発表のガイダンス 10/10



→当日のタイムテーブルや活動の中身を確認
→それぞれのブースの企画と確認

⑪ 湯田小フェスタでの発表準備

- ⑫湯田小フェスタ 11/17 → 琵琶湖を愛するミュージシャン「川本勇さん」をまねいてのライブ。
- ⑬それぞれの課題ごとに児童・保護者・地域へポスターセッション等実施
- ⑭『琵琶湖に何が見えますか』の実施
- ⑮川本勇さんの「古文具をアジアの子どもたちへ」協力
- ⑯湯田小フェスタの取り組みのまとめ
- ⑰次年度へ向けての取り組み
→学校運営協議会企画委員会での報告
- ⑱事業のまとめ



今回の事業を通じて子どもたちに取り組ませた観点は以下の通りである。

- ①地域の行事を知り、進んで参加し、自分たちの地域に誇りを持つことができる。
- ②琵琶湖や琵琶湖と繋がる地域の環境について調べることができる。
- ③身近な環境問題の解決のために、実践することができる。

特に、②では、事前に自分なりの課題を持って琵琶湖フローティングスクールへ参加することができた。課題解決への道筋を広く持つことができ、湯田小フェスタでのポスターセッションでは自分の言葉で伝えることができた。また、人とのふれあいを通して社会性を身につけることができた。

- また、課題を解決する力や学習の仕方について、
- ①琵琶湖の環境について調べたい課題を持つことができる。(課題設定の能力)
 - ②調べたことを伝えるための効果的な方法を考え、まとめることができる。(問題解決の能力)
 - ③内容を振り返り、次回の活動に生かすことができる。(自己評価力)
 - ④課題解決のため、関係機関と連携して情報を収集することができる。(情報を集める力)
 - ⑤友達と進んで協力しながら活動することができる。(友達の良さを取り入れる力)

⑥琵琶湖の環境問題に対して、様々な視点から見つめることができる。(多角的、構造的に考える力)に取り組んだ。

特に⑥の観点では、4年生の時に地域の河川を調べる学習を展開した。家庭からの生活排水がどのように処理されて琵琶湖へ流れていくのかや、パックテストにより水質の調査をした経験が活かされた学習展開になった。(日本下水道協会助成事業)

- さらに、意欲的に学習を進める観点では、
- ①琵琶湖の環境問題の解決のために進んで行動することができる。(学習への主体的、創造的な態度)
 - ②ゲストティーチャーに進んで質問したり、教えてもらったりすることができる。(学習への主体的、創造的な態度)
 - ③これまでの生活態度を振り返り、自分にできることを考え取り組もうとすることができる。(よりよい生き方を見つけようとする態度)
 - ④個を生かす知恵について知り、限りある資源を大切にしようとする気持ちを持つことができる。(実生活と結びつけて生かそうとする力)
 - ⑤活動を通して、充実感や成就感を味わうことができる。(自分の生き方を振り返る力)
- などについて取り組んだ。

今回のエコスクール事業では、自分たちの地域の中で、琵琶湖の環境へ影響する様々な要素(生活・産業など)について「知る」ことから始めた。子どもたちに課題を持たせる展開から意欲・関心を持たせ、最終的に課題解決への学習へつなげることができた。今後、地域を支えていく子どもたちの育ちを「地域とともにある学校づくり」の観点で取り組んでいきたい。



学校名	長浜市立湯田小学校
住所	長浜市内保町1051
電話番号	0749-74-0009
E-mail	yuta-sho@zc.ztv.ne.jp